

昌子の広場 第41報新春号 小林昌子議会報告

和泉市無所属市民派議員
小林昌子

和泉市緑ヶ丘2-13-10
自宅 Tel(Fax) 0725-54-2626
事務所 Tel(Fax)0725-53-4451
Email masakokob@yahoo.co.jp
http://masako-hiroba.info/
ホームページもご覧下さい
yahoo の小林昌子で検索出来ます



目次	
・年の初めに	P1
・一般質問、榎尾川ダム再評価委員会	P2-3
・昌子の広場	P4



榎尾川ダム条件付き事業継続再評価委員会の答申出る

この美しい自然を壊して何故ダムを造る？

今年が議員生活2期目の年です
今までにも増して市民の皆様の視点に立って議員活動を行います



皆様明けましておめでとございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年は【災】が一年を表す言葉となりましたが、相次ぐ地震や水害に自然の恐ろしさを痛感するとともに、世相は思いもかけない犯罪が多発するなど落ち着いた生活には程遠い一年でした。

世界では長引くイラク紛争、拉致問題の進展がみられない北朝鮮問題等緊張が続いており、更に自衛隊のイラク派遣継続が十分な審議なしに決まるなど国際貢献の名の下になし崩しに事が展開しているようで心配でなりません。

又年末に成立した来年度予算の骨格は構造改革とは程遠く増税が目白押しで国民にしわ寄せが目立つ予算でした。和泉市にも大きく影響する三位一体改革も数字あわせに終始する骨抜き改革で終わろうとしています。

さて和泉市では財政健全化計画が議会に提出されました。このままの状況が続くと財政赤字が膨らみ、程なく財政再建団体に転落する厳しい財政見通しが示されました。

高齢化の進展等もあって行政への期待はますます高まっていますが、このような限られた財政では市民の皆様の要求に全て答えることはもはや不可能となっております。施策の優先度が問われていきます。又全てを行政に期待するのではなく市民自ら何が出来るかを考えなければならぬ時代ともいえましょう。

一方行政にあつては不要不急な施策に貴重な税金を使うことは絶対にあつてはなりません。私は無駄な事業の横綱である泉州東部農用地整備事業、榎尾川ダムの見直しを強く求めてきました。

榎尾川ダム事業は昨年末の再評価委員会にて条件付きながら事業継続が決まりました。再評価委員会で反対の意見陳述を行い、質問書も提出しましたが力及ばず残念な結果となりました。

泉州東部農用地整備事業の中では217億円の巨費を投じて農道を建設しています。使つ人が限られる道路にこのような莫大な事業費を税金から投じる事が許されるでしょうか。

厳しい財政の中にあつても従来型の公共工事はなかなか無くなりません。市民の皆様には自分の税金の使われ方にもっと関心を示して下さい。それが行財政改革に大きな力となります。

ご意見をお寄せ下さい
皆様の貴重な意見が和泉市を変えます



一般質問報告

項目	質問	答弁
槇尾川ダムについて	ダムの費用対効果が今回の再評価で大幅に減少したが、この効果算定的前提は河川改修後かそれとも現状か。 ダム+河川改修と河川改修のみの方案で何故河川改修のみの方が時間がかかるのか。 現在進めている50mm対応河川改修の事業費はいくらか。 50mm河川改修+ダムで100年に一度の雨に対応出来るのか。 対応出来ないとする浸水がどの程度発生するのか。 ダムが無かったら浸水はどうなるか。	現在再評価委員会で審議中であり、直接大阪府に聞いて欲しい。
	大阪府の所管事項だから大阪府に聞けと理解しているのか	現在再評価中であり、細かな数字もあるので本市としてはすぐに答えられない。
	細かな数字の話ではない。二つに一つの質問である。過去4年間もっと細かい数字も答弁していただいた。何故門前払いなのか。	質問の中の数字について確認したい。
	既に文書で質問内容は提示してある。そのような事は事前に確認すべきである。お答えできない。このような事は大阪府に問い合わせた結果か。それとも原課の判断か。	原課の判断である。この事業は非常に重要な事項であり、現在再評価中で、議員もその委員会で意見陳述もされ、府からも回答が出ている。市を通じ間接的に府に確認するのではなく直接府に確認するのが適切と考える。
	私の質問は再評価委員会の判断についてではない。その前提となった数字について質問している。再評価中云々とは関係ない。再度答弁を。	再評価が終われば府に問い合わせは可能だが、事業主体が大阪府であり、そこに直接確認頂くのが筋と考える。
	【議場外】市の答弁は不当である。今回の再評価中でも6月、9月の一般質問に答弁している。今回答弁を拒否したのは程なく再評価で結論が出るのでそれへの影響を避けたものとしか考えられない。再評価委員会では一般傍聴者からの質問は許されていない。意見陳述は再評価委員会の最初にありそれ以降に出てきた疑問を質すべき機会がない。一般質問と大阪府の再評価委員会は全く別のものである。市民への説明責任を放棄したものと、議長に文書で善処方を要望した。	
市政50周年記念事業について	和泉市の歴史を引き継ぐ貴重な資料の保存はどうなっているか。	市史編纂事業を通じて歴史資料の調査を行っている。議員提案の8ミリ、ビデオ、録音テープも調査対象に加えたい。
	そのような市の考え方をどう市民に伝えるのか	従来同様広報いずみを通じて呼びかけをしたい。
	【要望】都道府県は勿論、地方自治体でも公文書館を持っているところがある。必ずしも立派な建物では無くても、廃校となったところを利用しているところもある。公文書館建設の機運が起こったときは、デジタルアーカイブやフィルムアーカイブなど和泉の歴史を保存し広く活用出来るようになることを要望する。	
子供たちの安全確保について	奈良県での児童殺害や和泉市でも連れ去り未遂が発生しているが不審者の発生状況とその防止対策は。	不審者は今年度12月までに75件発生。防止策は学校での指導で対応している。

	防犯ブザーの所持状況は	12月の調査では43%が所持している。小学校1年生には企業の寄付で全員ホイッスルを配布。
	教育委員会から貸与が出来ないのか	かなり普及しつつあり、現時点では配布の考えはない
	以前提案した不審者情報の保護者へのメール配信は	現在小学校1校で実施。他に小学校と中学校それぞれ1校予定している。情報管理の問題等課題があるが今後次第に増えるものと思われる。
	登下校中の踏切事故再発防止策は	学校教育活動の一環で交通安全の指導を行っている。交通安全教室も毎年実施している。
	踏切の危険防止のために人の配置が出来ないか	危険な踏切は府中の踏切以外にも多くあり、警察や関係団体又地域の人々の協力等関係者こぞっての安全確保に努めたい。
	【議場外】教育委員会の姿勢は学校任せ、地域任せに終始している感が強い。費用がかかる防犯ブザーや踏切への配置には財政的に厳しいことは理解できるが終始消極的で、メール配信なども積極的にこれを進めようと言う意欲が感じられない。子供たちの危険予防は何にもまして優先されるべきで、事故があった後では“後の祭り”となりかねない。	
危機管理（震災対策）について	上町断層が動いたときの地震の被害想定は	震度は5弱から6強を予想。建物全壊2118棟、半壊6728棟、死者64人、負傷者1946人、罹災者数31528人を想定。避難者9200人
	職員の初動体制は	災害応急対策実施要領に規定し、それに従う。配備した職員が機能するかは図上訓練や職員の行動マニュアル化が必要と考える。
	庁舎建物の耐震診断は	府内の自治体で耐震診断が必要な市は26市そのうち14市で実施。当市はまだ行っていないがその必要性は認識している。今後関係課と調整して進めたい。
	消防署の耐震診断は	朝日出張所は既に実施済みであるがその他は未実施。市庁舎の耐震診断計画等を勘案しながら実施したい。
	震災時のホストコンピューターの復旧は	データの分散管理等危機回避の予防策は講じているが、コンピューターが全損の場合は復旧まで二～三ヶ月はかかる。

大阪府建設事業再評価委員会で榎尾川ダムの条件付き事業継続決まる

平成16年6月より2回目の再評価委員会が行われていましたが、先日12月21日の再評価委員会で条件付きながら事業継続が決まりました。

再評価委員会は計画から5年を経過しても事業が終わらないものについて、その事業の必要性などについて再評価する機関であり、榎尾川ダムは計画から10年を経過していることから2回目の再評価を行ったものです。

<今回再評価のポイント>

。事実確認

事業費の増加

左岸道路の追加等で事業費が97億円から128億円に増加

費用対効果が大幅に悪化

事業費の増加と計算方式の変更で便益を費用で割った値が10.43から1.46に大幅に悪化（投資効果が一気に悪化）

。代替手法との比較

現行計画の河川改修+ダムと河川改修（掘削法）のみによる方案比較を実施。以下の比較でダムの事業継続が決まりました。

- ・事業費 両案に大きな差はない

- ・治水効果発揮までの時間

ダム+河川改修；概ね10年

河川改修のみ；概ね20年+

- ・地元の協力 河川改修のみ案は地元合意に問題あり

再評価委員会の数々の疑問

今回の再評価委員会の議論に多くの疑問があります。私たちは大阪府に再評価委員会の結論が出る前に質問書として疑問点を提出し、大阪府からの回答を得ましたが私たちの疑問に真摯に答える姿勢は全くなく、木で鼻をくくったような通り一遍の回答しか寄りませんでした。

<私たちの疑問>

代替案の河川改修のみの場合の大川橋から上流のあの小川の河川改修費に、100年確率対応を金科玉条に116億円の巨額の改修費を見積もっている。河川改修のみの方案の方が事業費は安くなる。河川改修のみの方案の効果発揮までの時間に重大な誤りがある。両案に大きな差はない。河川改修は下流から上流に向かって工事をするのが原則で、大川橋から上流の河川改修を現計画の中下流の河川改修が終わってからしかできないので工期がかかると説明。しかし大川橋から上流の氾濫は河川とともに流下し滞留がないので、上流の河川改修をしてもしなくても中下流への負荷は変わらない。

今後も機会あるたびに質していきます。

住基カードと公的個人認証のその後

引き続き住基カードと公的個人認証についてその後の状況を報告します。1年半経過しても住基カードは323枚(計画の僅か7%)、公的個人認証に至っては1年でたった57件。市はPRに努めますと言っているが一向に効果が現れません。もともと市民にとっては是非とも必要なシステムではなかったのです。



	カード交付枚数	公的個人認証
H15年	103	
H16.1	8	2
H16.2	10	4
H16.3	19	6
H16.4	19	1
H16.5	13	1
H16.6	24	4
H16.7	19	5
H16.8	20	6
H16.9	22	4
H16.10	21	5
H16.11	25	7
H16.12	22	12
計	323	57

この住基システムに和泉市だけで14年度末まで人件費を除いて約5千万の開発費、運営費はこれも人件費を除いて毎年約500万円がかかっています。

お願い。ホームレスの方に衣類提供を!

急に寒くなってきました。これからはテントで暮らす人に暖かい衣類が必要となります。ご協力をお願いします。宜しければお家まで引き取りにお伺いします。



Tel 0725-54-2626 小林迄ご連絡下さい。

既に14回釜ヶ崎にお届けしました。

昌子の日記

- 12/1 事務所運営委員会、介護保険勉強会、ピースウォーク実行委員会
- 12/2 全員協議会、吉村うさぎさん講演会、子育てサロン
- 12/3 和泉中央駅会報配布
- 12/4 EM グループ忘年会、石尾つ子ふれあいフェスタ準備
- 12/5 石尾つ子ふれあいフェスタ
- 12/6 和泉中央駅会報配布、本会議、榎尾川ダム再評価委員会傍聴
- 12/7 民生企業委員会傍聴、日韓心の交流シンポジウム
- 12/8 産業建設委員会、市政相談会
- 12/9 総務文教委員会傍聴
- 12/10 議運
- 12/11 ピースウォーク、万葉講座(事務所行事)
- 12/15 一般質問
- 12/16 一般質問、子供・家庭サポーター会議
- 12/17 本会議、議運
- 12/18 次世代育成支援対策行動計画説明会
- 12/20 和泉府中駅会報配布、事務所忘年会
- 12/21 信太駅会報配布、榎尾川ダム再評価委員会傍聴
- 12/22 北信太駅会報配布
- 12/24 和泉中央駅会報配布
- 12/25 S コープ大阪中期計画検討委員会
- 12/27 和泉府中駅会報配布、ゴミ減量等審議会
- 12/28 光明池駅会報配布
- 12/29 和泉中央駅会報配布

<事務所行事> いずれも小林昌子事務所
 連絡先 自宅 TEL 0725-54-2626
 事務所 TEL 0725-53-4451
 (事務所 緑ヶ丘1-3-15)

万葉講座(場所 緑ヶ丘自治会館にて)
 ・講師 大高勇さん(犬養万葉顕彰会会員)
 いずれも午後2時より 参加費1,000円(3回分)
 ・次回講座は3月から始まります。ご期待下さい。
 4月24日には奈良方面に現地散策の予定

パソコン講座(参加費無料)
 ・毎週 木、土曜日 14時から約2時間
 ・パソコンが初めての方もどうぞ遠慮なく。
 初めてこられる方はご連絡下さい

市政相談会
 ・第2、4水曜日 20:~21:30
 この時間帯で都合のよい時間にお越し下さい